

平成 30 年度 第 1 回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成 30 年 6 月 6 日 (水)

13 時 40 分～15 時 40 分

場所 上田市 上田駅前「パレオ」2F 会議室

1 開 会

会議成立の報告 (事務局)

委員 25 名中 16 名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
(協議会規約第 6 条第 2 項)

2 あいさつ

<しなの鉄道活性化協議会会長>

当協議会の会長を務めておりますしなの鉄道(株)専務取締役です。よろしくお願いいたします。
本日は大変お忙しい中、当協議会にお集まりいただきありがとうございます。

平素、しなの鉄道の運営に対しまして、利用される皆様、経済団体の皆様、様々な場面で
多大なるご支援、ご理解をいただいておりますこと、改めて御礼申し上げます。

新聞報道にもございましたが、先月の 31 日に弊社取締役会が開催され、昨年度の決算報告
を行い承認されました。簡単に紹介させていただきます。

しなの鉄道線は、定期外、通勤及び通学定期すべての券種で前年度を上回る 1,037 万人、
101.1%となり、目標の 1,000 万人を達成しました。内訳は、定期外 101.4%、通勤 101.8%、
通学が 100.4%となりました。また、本日は飯綱町様及び信濃町様もオブザーバーとしてお
見えですが、北しなの線は 440 万 6 千人、99.4%と昨年よりは若干減りましたが、微減に留
まり、400 万人を達成することができました。

昨年度は、一昨年度の NHK 大河ドラマ「真田丸」放映効果の反動減を見込んでおり、非
常に厳しいという見立てをしていましたが、皆様のご協力もあり好調な輸送人員を確保でき
ました。しなの鉄道線 101.1%の要因として、一つは通勤定期が非常に堅調であったこと
です。1.8%の増加は、堅調な雇用情勢を背景に、多くの方々が通勤にご利用いただいたの
ではないかと思えます。一方、上田地域の利用者は 4 万人ぐらい減っております。これは NHK
大河ドラマ「真田丸」放映効果が収束し、通常に戻ったと思われませんが、全体では 4 万人増
加しており、その要因として軽井沢～中軽井沢駅間のお客様が年間 8 万人増えております。
星野リゾートを訪れるお客様のため中軽井沢駅から専用バスを発着しており、海外のお客
様を含め軽井沢駅から中軽井沢駅間の往復に電車を利用されるお客様が増えております。この区
間だけで 8 万人増えており、上田地域で 4 万人減少したものの、全体では 4 万人増えたとい
う結果です。また、昨年度、当社は開業 20 周年を迎え、現有の 115 系車両を懐かしの車体
カラーとして復刻した車両の運行や、企画列車の運行を開始しましたので、それらもお客様
が増えた要因ではないかと分析しています。

営業収入は北しなの線を含め 45 億円、営業損益は 2 億 4 千万円、最終黒字は 2 億 2 千 3

百万円で、13期連続最終黒字となりました。大変堅調な経営状況は、皆様のご協力の賜物と考えています。

しなの鉄道線の主な出来事としては、小諸駅にバリアフリーの関係でエレベーターが完成しました。また、当社開業20周年の象徴的な事として、しなの鉄道軽井沢駅の「駅ナカ開発プロジェクト」が3月に完成し、グランドオープンしました。この他、新しい取り組みとして、東御市様のご協力のもと、軽井沢～田中駅間の休日フリーきっぷを発売しました。それから、訪日外国人向けのフリーパスとして軽井沢～屋代駅間のフリーきっぷも発売しました。これは、海外のお客様がパスポートを提示するとお買得になるということで、利用者は伸びてはいませんが、当社では、今後のインバウンド対策として進めてきました。このような取り組みもあり、しなの鉄道線は堅調な1年を過ごせたと思っています。

一方、今年度以降の話ですが、当社の第4次中期経営計画を3月に策定しました。非常に経営環境が厳しく、どの市町村様も同様と思いますが人口減少問題が鉄道会社にとっても問題となり、第4次中期経営計画の中でも、今後の見通しとして利用者が減少していくという予測を立てざるを得ないところです。従って、今後5年間で営業収入は少し減っていく見込みを立てており、また、新聞報道にもありましたが、2019年度から車両更新に本格的に着手していきます。車両更新というのは鉄道事業者にすれば安全安定輸送をしていくための要の事柄であり、これはもう避けて通れない課題です。車両更新は、国、県と市町の補助金という形で支援いただきながらなんとか乗り切っていきたいと考えています。従って、一方では収入が徐々に減っていき、もう一方では支出が増えていくという中で収支ギャップが拡大していき、現在の黒字額は徐々に縮小していくこととなり、非常に厳しいと考えています。

これをどの様に乗り切るかについては、当然ながら車両更新には多額の費用が必要ですが、電気料金は現在の半分、検査費用についても現在の3分の2程と試算していますので、ある程度のコスト削減は、新車によって出来るだろうと思っています。しかし、運輸収入だけに頼ることは限界があると思われ、軽井沢の「駅ナカ開発」事業など鉄道の関連事業収入を強化していかなければならないなということで、不動産活用を含め様々な取り組みをしているところです。当社が、これからも地域の基幹的な公共交通機関として役割を果たせるように努めてまいりたいと思います。

収入に関連し、本協議会資料に三菱UFJリサーチ&コンサルティングが調査した資料があります。その中で、調査対象の全国の鉄道事業者で、利用者が増えているのは8社位あり、その全てに共通しているのは、通勤定期利用者が増えていることです。当然インバウンドなど観光面の強化も必要ですが、やはり鉄道会社ですから基礎体力となる安定した収入源として、通学はもちろん通勤の利用者を安定的に増やしていくということが鉄道事業者にとっては非常に大事な事だろうと思います。本日の議題にもなりますが、通勤定期の実態調査は、沿線各市町様、商工団体の皆様のご協力をいただき実施していますが、調査結果を何とか根拠化してまとめ、新しいそれぞれの立場で打てる手はないかという事を一生懸命考えていきたいと思っています。

当協議会は、軽井沢～小諸間の実証運行を除きますと情報共有の場というのが大きな目的でしたが、通勤の実態調査の分析を通じ、協議会としてももう少し主体的に担える事業展開していけたらと思います。

3 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

- (1) しなの鉄道活性化協議会規約の一部変更について
事務局から「資料1」を説明。

（異議なし、原案のとおり承認）

- (2) 平成29年度しなの鉄道活性化協議会事業報告について

- (3) 平成29年度しなの鉄道活性化協議会決算について
事務局から「資料2」及び「資料3」を一括説明。
監査報告： 監査委員による出納監査結果を報告。

（異議なし、一括して承認）

- (4) 平成30年度しなの鉄道活性化協議会事業計画（案）について

- (5) 平成30年度しなの鉄道活性化協議会予算（案）について
事務局から「資料4」及び「資料5」を一括説明。

（異議なし、原案のとおり一括して承認）

(6) その他

<議長>

本年度当協議会の一番の取り組み事項は通勤定期の利用実態調査をまとめ上げ、できれば次年度以降の事業化につなげていきたいという事と思います。

先ほど事務局より説明がありましたパーク&ライドについて、小諸駅は新設ではなく元々あった当社の駐車場をエレベーター工事のため1年間閉鎖しました。以前は直営でしたが、今回からタイムズ様に土地を貸して運営してもらうという形にしました。軽井沢駅は、駅から碓氷峠にかけて2ヘクタール位の細長い遊休地がありますが、かつて商業店舗が入る構想がありましたが、結果的にはそういう形にならず、軽井沢の「駅ナカ開発」をする際に少しでも収益向上になり、パーク&ライドの趣旨に沿う形で活用するため、同様にタイムズ様に運営してもらっています。本日は飯綱町様がオブザーバーとして出席されていますが、これから飯綱町様と、北しなの線牟礼駅の駅前整備をしていきます。パーク&ライドは、一つは駐車場の整備を各市町様と協力して行っていきたいというのと、もう一つ、バスとの接続を改善していくことが大事になると思います。課題は昔から言われている事の繰り返しですが、これが一番の解決策というのではありませんが、今後もしっかりと行っていきたいと思っています。

3月にグランドオープンした、森の子リスキッズステーション in 軽井沢は各市町様に活用していただいています。新幹線利用者に対する呼び込む努力は不足していますが、軽井沢の年間840万人の観光客は県外からのお客様が多いので、沿線、広くは

長野県全体の PR、情報発信の場として活用していきたいと思っていますので、是非とも今後も市町、商工会議所、経済団体の皆様に活用していただければありがたいと思います。

信越線開業 130 周年イベントについては、まだ詳細が決まっていますが、しなの鉄道沿線観光協議会事務局長より説明します。

<しなの鉄道沿線観光協議会事務局長>

信越線が開業し、本年で 130 周年を迎えます。現在、J R 東日本長野支社、えちごトキめき鉄道と記念列車、臨時列車、スタンプラリー等のイベントについて内容を詰めているところです。ただ、この鉄道事業者 3 社だけで盛り上がるわけではございませんので、各沿線市町様のご協力をお願いしたいと思っています。観光関係の部署が担当かと思われませんが、ご協力のご案内に伺いますのでよろしくお願いします。

<議 長>

ありがとうございました。軽井沢まで線路が繋り、今年で 130 周年になりますので沿線を挙げて盛り上げていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

ア. 信越線開業 130 周年のご説明いただき、記念イベントの関係、これから各市町の方に協力依頼をされるという事ですが、具体的にどのようなことを考えていますか。

<しなの鉄道沿線観光協議会事務局長>

J R からの話としては、各駅の停車時分は 5 分から 10 分程になると思いますが、記念列車を運行する際に、賑わいの演出という事で物産の販売や、太鼓演奏など音物のご協力やスタンプラリー等を予定しておりますので、地域の特産品等のご提供をお願いするようところで話を詰めております。

<議 長>

現在、J R と協議中ですのではっきりとは分かりませんが、なるべく沿線市町様と一緒に盛り上げていきたいという趣旨ですので、また正式にお願いに参りたいと思っています。

イ. しなの鉄道とは、企画切符の関係で東御のワインをからめて観光の 2 次交通という話がありましたが、駅からの乗り継ぎの部分に、市の方で 2 次交通 10 人乗りのワゴン車を使って市内のワイナリーを回るというところに、軽井沢駅から田中駅までのフリーきっぷをかなり格安で提供していただいているという事で、今年も 6 月 2 日からスタートしておりますので今後も車内 P R をお願いしたいと思います。

森の小リスクッズステーション in 軽井沢の関係で、先週日曜日、非常に天気の良い状況で見に行きましたが、自由通路のデッキの陰になってしまい、旧駅舎を復元したことは非常に良かったのではないかと思いますのですが、お客様を引っ張るとい

ろがなかなかできておらず、現状では追いつかないと言いますか、経費がかなり掛かっていますので参画している皆様で定期的に会合を開く等行っていかないと、せっかくイベント等を開催しても活性化に繋がらないのではないかと不安があります。しなの鉄道に音頭を取っていただき、森の小リスクッズステーション in 軽井沢に多くのお子さんが集まるような取り組みを行っていただきたい。

<議 長>

動線が自由通路の真下で見えないことについて、どの様に誘導するかという事は、以前からの課題であり、十分認識しておりますので今後検討してまいります。

ウ. 商工会の会員様と販売等々協力できればと思っております。

<議 長>

行政とは違った立場ですので、お気づきの点があれば何なりとこの場でご発言いただければと思います。

エ. 日頃定期券を使って長野に通い、10年ぐらしなの鉄道を利用しています。一鉄道ファンとしてお聞かせいただきます。115系の電車はもう40年程経ちこれ以上更新できない状況の中、全国でも115系車両が走っているのは少ないという事ですが、横須賀色、初代色等6種ぐらい運行しており、いっそのこと新潟色等様々な車両がありますので、全部集めたらいかがでしょう。「コカコーラ」レッド・カラーの車両はインターネットで募集をかけて塗装費用を出したと聞いています。増収につながるのなら、そのような形で考えてもらえたらどうかと思います。

軽井沢～小諸間の増便実証運行について、8年、9年行っていますが、その効果はどうなっているのでしょうか、効果はあったのか無かったのかお聞かせください。

<議 長>

塗色変更については、そのような方法はあろうかと思いますがストーリー性が必要だということで、この線路を走ったカラーを復刻し運行していますが、まったく可能性が無いわけではありませんので考えさせていただきます。

増便実証運行については、一定の効果はあったと思います。特に最近の動向を見ていますと、休日は軽井沢～小諸間は混みますので、増便が役割を果たしていると思いますが、乗車調査を行ったところ乗っている電車と乗っていない電車があります。実際は増便だけの効果で増えている訳ではありませんので、もう少し様子を見させていただきながら何を見直し、或いはどうするのかをこれから考えていきたいと思っています。

オ. 坂城町は今、ばら祭りの最中ですので、そういう地域の資源を十分生かしたものをこれからも企画していきたいと思っています。

カ. 今まで、テーマに沿って私共の企画に合うものをしなの鉄道と一緒に行う面がありましたが、せっかく鉄道で繋がっていますので、もっとほかの地域との連携というのをテーマに行いたいと思います。本年度は、秋のビール列車など、まずは電車に乗ろうという企画を行っていますが、上小地区は連携できている中で、他の地域の商工会様とも連携できるものは是非させていただきたい。例えば、坂城町様のばら祭りは情報をお寄せいただき、PRさせていただいていますが、もっとお互いに自ら進んでこの沿線でPRしていくのが良いと思っています。

<議長>

協議事項が全て終了しましたので、当協議会副会長の上田市都市建設部長より一言コメントいただきます。よろしくお祈いします。

<しなの鉄道活性化協議会副会長（上田市都市建設部長）>

只今ご紹介いただきました上田市都市建設部長でございます。

本年度、異動の関係で、当協議会に初めて出席された方もおられますが、この沿線の各市町様が協力しながらしなの鉄道の盛り上げと各市町村の盛り上げに皆で一丸となってやれば一番良いと思います。

色々ご説明いただき、昨年度もそうでしたが、本年度も様々な事業が計画されているという事でしなの鉄道さんも本当に大変でございますが、私たちが出来るだけ協力させていただきますのでよろしくお祈いします。

<議長>

当協議会副会長の長野県企画振興部交通政策課より一言コメントいただきます。よろしくお祈いします。

<しなの鉄道活性化協議会副会長（長野県企画振興部交通政策課）>

只今ご紹介いただきました長野県企画振興部交通政策課課長補佐兼鉄道企画係長でございます。本来であれば課長が出席すべきところ所用のため代理で参りました。

先ほど会長からお話ございましたように、昨年は無事13期連続の黒字という事で、これも皆様方のおかげであると考えております。今後は厳しい経営環境という事ですが、まさにこの活性化協議会の役割というのが大きくなっていくのではないかと考えております。防災でもそうですが、地震があった直後というのは皆危機感を持ちますが、しなの鉄道も以前長野県が103億円の支援を入れ、非常に経営危機という時代があり、その時は皆でどうしようと懸命でしたが、黒字の時期が長く続くと兎角まあ大丈夫だろうと安堵感が広がってしまいがちと参っております。まさにこれからの時代、この協議会を通じて、協議会の目的でもあります利用者の増加、それから地域公共交通全体の活性化というところで、皆様のアイデアやご協力をいただきながら取り組ん

でいくことが大事ではないかと考えます。そういう意味では、一鉄道ファンの意見という事でしたが、こうしたら良いのではないかという意見をいただいたことはありがたいと思います。皆様からいただきましたご意見や、お客様の声も活かしながら事業として、企画として取り組んでいく、こうした連携した形でこの協議会が動いていけば非常に良いのではないかと思います。

通勤利用者の確保はまさに屋台骨の部分ですので、長野県としてもこのアンケートに自分たちはどうなのかと見つめ直す意味もあり、県庁、長野合同庁舎、上田合同庁舎等の職員がどのように通勤をしているのかについて、最新の状況を調べ直し、マイカー利用者については公共交通利用を呼び掛けていきたいと考えております。

そういった意味では皆さんと一緒に、県も先頭に立って利用促進に取り組んでまいりたいと思います。

それからもう1点ですが、新聞等にも出ております車両更新について、何と云いまして国の支援、皆様の支援をいただきながら、なんとかこの車両更新を進めていかなければならないと思っております。県としましても先般、知事自ら国土交通大臣に補助の拡充、確保をお願いしたところでありますし、県自らが皆さんと一緒に補助の方をうまく進めていけるように検討していきたいと考えておりますので市町の皆様方にも財政状況が非常に厳しい中ではございますが何分ご協力をお願いしたいと思います。

4 閉 会

以 上